

# 鎌倉市のインフラのあり方を一緒に考えませんか？

～市民のみなさんの**安全・安心**を守りつづけるために～

## 鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定に関する

### 市民アンケートの鎌倉市からのお願いです。

みなさんの生活を支える鎌倉市の社会基盤施設（いわゆる「インフラ」。）について、考えたことはありますか？

鎌倉市では、充実した公共サービスを提供するため、これまでに多くのインフラを整備してきました。特に昭和 30 年から 40 年代に集中的に整備され、その結果、まちは成長し大きくなりました。

一方で、日本の人口はすでにピークを過ぎ、減少が始まっています。鎌倉市の人口予測においても、

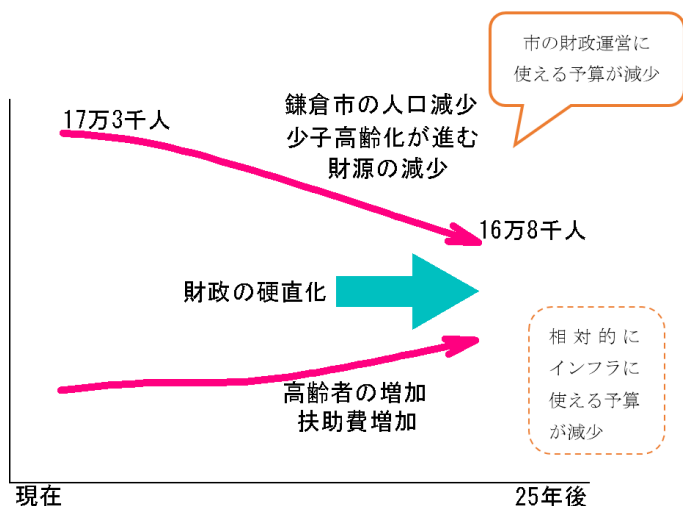
今後 10 年程度は微増傾向を示すもののほぼ横ばいですが、その後、人口は減少し、少子高齢化が進むことが示されています。人口が減少することで、市の財源も減少しますが、一定の時期に集中的に



※インフラとは：道路、橋りょう、トンネル、河川、雨水調整池、公園等、緑地、下水道などのことです。

整備されたインフラの多くが老朽化し更新時期を迎えることから、維持管理や補修更新のために、これまで以上の多くの予算を割り当てなければなりません。その一方で高齢化が進むことで、扶助費も増加すると考えられ、相対的にインフラの管理に使える予算が減少し続ければ、市民のみなさんの安全・安心を脅かすことになりかねません。

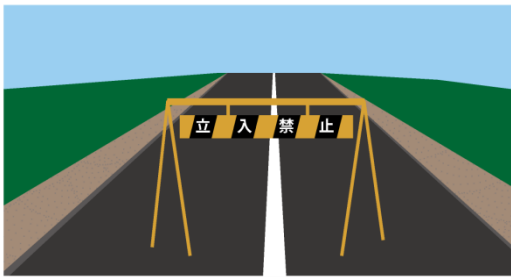
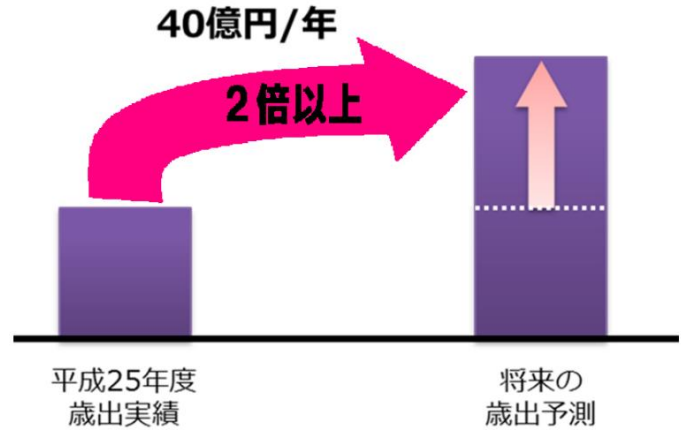
実は、このような状況は、鎌倉市に限ったことではありません。





平成 24 年（2012 年）に発生した笹子トンネルの崩落事故を契機に、全国的なインフラの老朽化問題がクローズアップされ、持続可能な社会の構築に不可欠なインフラをどのようにマネジメントしていくのか、全国各地で様々な議論・取組が進められています。

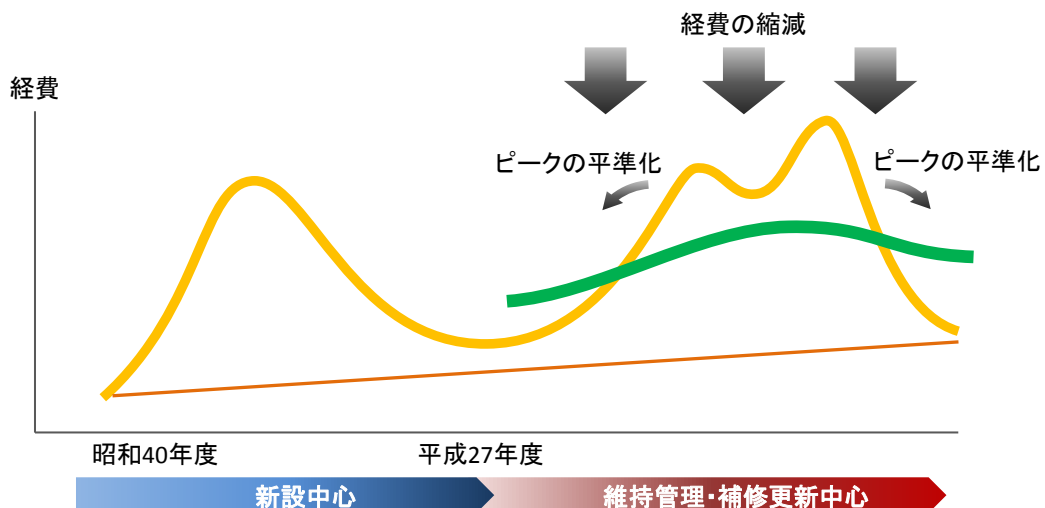
このような背景のもと、鎌倉市では、市が管理するインフラを対象に、社会基盤施設マネジメント計画の策定に取組みはじめました。平成 27 年（2015 年）3 月には、インフラ管理の現状と将来予測されるインフラ管理経費について整理し「鎌倉市社会基盤施設白書」を策定しました。白書作成の過程で、この問題に取り組まなければ、将来的に、平成 25 年度（2013 年度）の歳出実績（約 40 億円）と比較すると 2 倍以上の予算を確保し続けなければならない可能性があることがわかりました。



しかし、先に説明にしたとおり、将来にわたり、十分な予算が確保できる可能性は低く、このままでは、道路や公園などが突然使えなくなってしまう日や、老朽化したインフラが倒壊し事故を引き起こす日が訪れるかもしれません。

そのような事態を避けるため、市では、今後も市民のみなさんが、安全に安心してインフラを使うことができるよう、平成 27 年度は、「鎌倉市社会基盤施設白書」で整理したインフラ管理の現状と課題を踏まえ、インフラの管理のあり方を見直し、財政負担を軽減するための施策をまとめた「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」を策定する予定です。

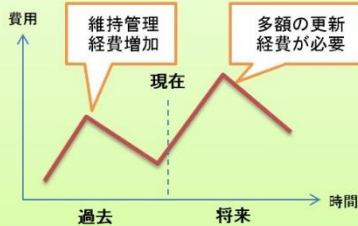
安心・安全を第一に考えた場合、統廃合や機能・サービス水準の見直しを決断せざるを得ないインフラもあるかも知れませんが、取組みを進めることで、将来の歳出額を計画的かつ徹底的に抑制するとともに、必要な予算を確保して市民生活に必要なインフラを維持・管理していきます。



# 鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定の背景と目的

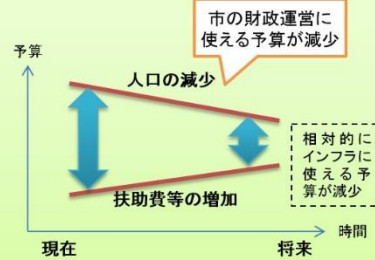
## インフラ管理経費が増大

- 老朽化にともない補修・修繕が増加
- 耐用年数の到来による施設の更新の更新



## インフラ管理予算の制約

- 人口減少にともなう税収減少
- 少子高齢化の進展による扶助費などの増加



**今のままでは現在のインフラを維持し続けることは困難  
市民生活にも悪影響を及ぼす可能性も増大**

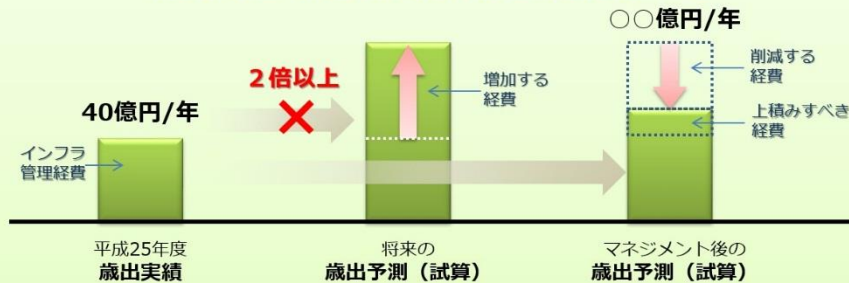
**例えば、次のような事故が発生する可能性**

- 道路の陥没(老朽化した下水道等の影響)
- 橋りょうの落橋
- トンネルの崩落
- 案内標識の倒壊
- 公園遊具の破損



## インフラマネジメントの必要性

**マネジメント計画に基づき計画的かつ効率的な維持更新を行うことにより、  
市民の安全・安心を維持し、市民生活を支え続ける**



**計画的なマネジメントの実施には市民のみなさんの理解と協力が不可欠です。**

- **サービス水準や管理水準の見直し**
  - ・ 安全や安心を最低限確保できる維持管理の品質
  - ・ 見た目や、快適性がこれまでよりも損なわれる可能性
  - ・ インフラの総量を減らす可能性
- **受益者、原因者負担の適正化**
  - ・ 最低限の品質が維持するため、市民のみなさんに新たな負担をお願いする可能性

**市民サービスの維持を図るため、インフラマネジメントを着実に実行する体制、制度を整備します。**

インフラは市民のみなさんの生活の中に、当たり前のように存在し、今までみなさんの生活を支えてきました。そのため、意識して見られる機会が少ないものも存在します。市では、市民のみなさんの安全・安心を守るためにも、インフラの現状と、将来の見通しについて少し興味をもっていただきたく、次のページからは、鎌倉市内各所に存在するインフラを写真等を交え、分かりやすく説明していきます。

# 鎌倉市が管理するインフラ施設一覧

### 道路（舗装）



管理数量  
車道 622km  
歩道 57km

凡例  
— 1級市道  
- - - 2級市道

### 道路（橋りょう）



管理数量  
橋りょう 207橋  
ペDESTリアンデッキ 2箇所

凡例  
■ 橋りょう

### 道路（トンネル）



管理数量  
トンネル 21箇所

凡例  
○ トンネル

### 河川



管理数量  
河川 9河川

凡例  
— 河川

### 雨水調整池



管理数量  
雨水調整池 26箇所

凡例  
○ 雨水調整池

### 下水道（管きよ）



管理数量  
汚水管きよ 488km  
雨水管きよ 237km

凡例  
— 汚水管きよ  
- - - 雨水管きよ

### 下水道（処理場）



管理数量  
下水道  
終末処理場 2箇所

凡例  
○ 下水道  
終末処理場

### 下水道（中継ポンプ場）



管理数量  
中継  
ポンプ場 7箇所

凡例  
○ 中継  
ポンプ場

### 産業振興施設（漁港）



管理数量  
漁港 1箇所

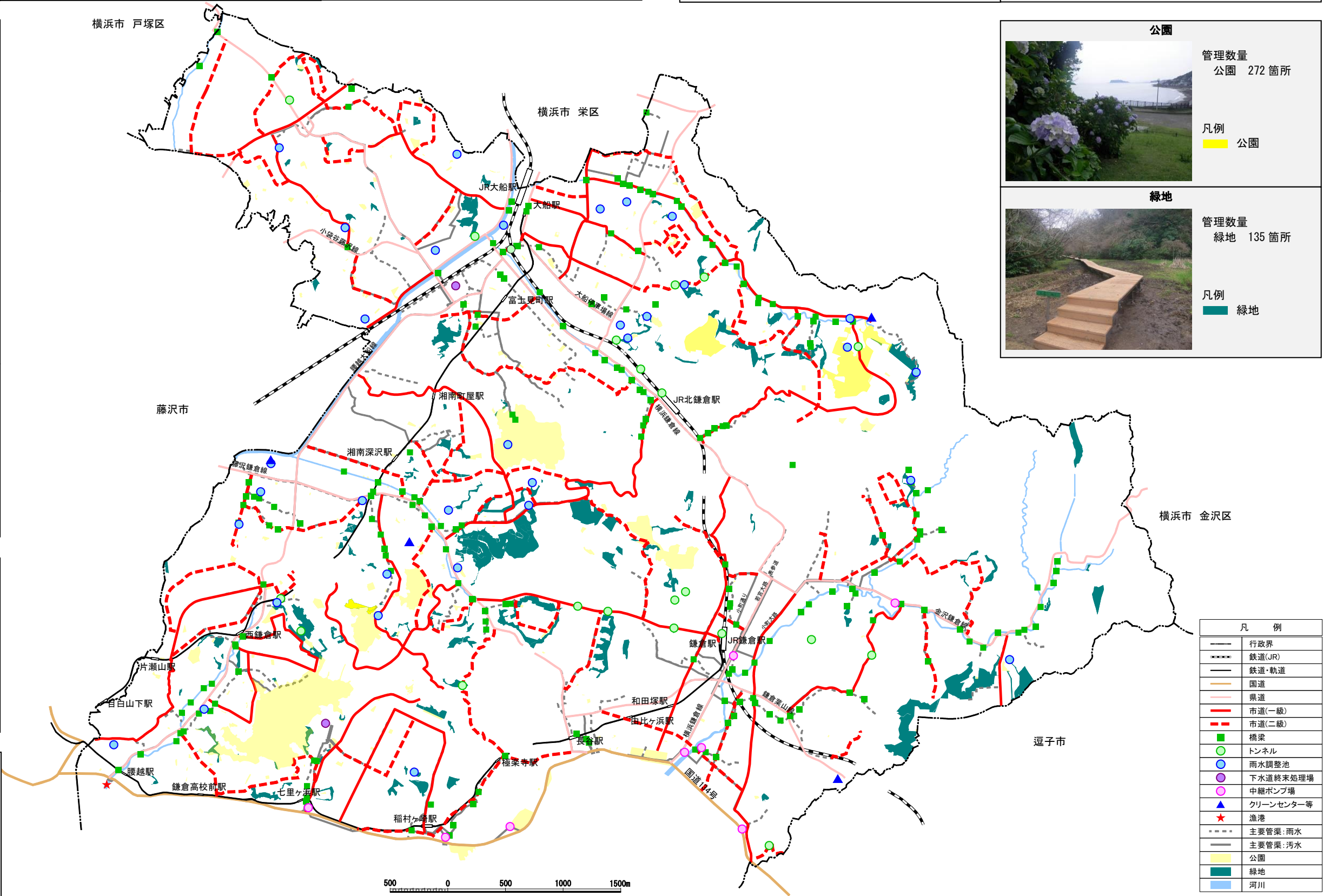
凡例  
★ 漁港

### 生活環境施設（クリーンセンター等）



管理数量  
ごみ焼却場 2箇所  
リサイクル  
センター 1箇所  
し尿処理施設 1箇所

凡例  
▲ クリーン  
センター等



### 公園



管理数量  
公園 272箇所

凡例  
■ 公園

### 緑地



管理数量  
緑地 135箇所

凡例  
■ 緑地

凡 例	
<span style="color:gray">—</span>	行政界
<span style="color:gray">- - -</span>	鉄道(JR)
<span style="color:gray">—</span>	鉄道・軌道
<span style="color:orange">—</span>	国道
<span style="color:red">—</span>	県道
<span style="color:red">—</span>	市道(一級)
<span style="color:red">- - -</span>	市道(二級)
<span style="color:green">■</span>	橋梁
<span style="color:green">○</span>	トンネル
<span style="color:blue">○</span>	雨水調整池
<span style="color:purple">○</span>	下水道終末処理場
<span style="color:magenta">○</span>	中継ポンプ場
<span style="color:blue">▲</span>	クリーンセンター等
<span style="color:red">★</span>	漁港
<span style="color:gray">- - -</span>	主要管渠:雨水
<span style="color:gray">—</span>	主要管渠:汚水
<span style="color:yellow">■</span>	公園
<span style="color:green">■</span>	緑地
<span style="color:blue">—</span>	河川

前ページでは、鎌倉市のインフラが、どの程度あるのかをお示ししましたが、ここからは、インフラの種類別に少しだけ詳しくお話します。

## 道路・橋りょう・トンネル

みなさんが普段の生活で利用している道路のうち、鎌倉市が維持管理する道路は、国道、県道、私道を除く道路です。鎌倉市の道路は、主に鎌倉時代に形成された街の骨格を踏襲し、時代とともに整備してきた歴史的な経緯があります。このため、道路は比較的早い時代から整っています。

橋りょうについては、50年以上を経過した橋りょうが全体の14%以上を占める現状です。

また、本市が管理するトンネルには、コンクリート製、コルゲート巻き、素掘りなどの構造のほか、地下道があります。

道路には、道路を彩る街路樹、夜に街を明るく照らす街路照明灯、交差点の名称表示などの道路標識、曲がり角で安全を確保するカーブミラー、歩行者の安全を守るガードレールなども設置されています。

道路や橋りょう、トンネル、街路樹等の道路に付属する施設を、今と同じように維持していくとした場合、年間に掛かる費用はおよそ10億円となり、現在の道路関連の維持管理費のおよそ1.3倍の費用が必要になります。



琴弾橋



二階堂川

## 河川・雨水調整池

本市が管理する河川には、準用河川が4河川、普通河川が5河川ありますが、本市の河川施設は、老朽化した施設が多くなっています。

準用河川の整備状況は、10年確率での計画降雨量、1時間当たり57.9mmの暫定改修でも、約30%であり、さらにレベルの高い改修を行うためには、河川拡幅が必要となります。しかし河川沿いは宅地が連担しており、新たな拡幅等は困難なことから、改修や補修が進んでいません。

また、本市が管理する雨水調整池は、ポンプ排水方式7箇所、自然流下方式26箇所の合計で33箇所あります。

仮に、河川・雨水調整池を今までどおり管理していくとしても、年間でおおよそ4億円の費用が必要であると予測され、現在の河川・雨水調整池の維持管理費のおよそ2倍かかることとなります。

## 公園等・緑地

本市は市街地が緑に囲まれているという構造的な特徴をもち、緑は本市を特徴づける重要な資源と位置づけています。

緑地は、鎌倉市全体で約 100ha ありますが、このうち約 50%が土砂災害警戒区域に位置していることから、予防的な防災対策の視点を取入れた計画的な維持管理に取組み、安全・安心で魅力的な緑を維持していく必要があります。

市民のみなさんにとって身近な街区公園は、開発事業により設置され、本市に移管された公園が多く、大規模な開発の少ない鎌倉地域には公園の配置

が少なく、街区公園の数には地域的な偏りがあります。また、高度成長期に設置された公園が多いため、約 40%は供用開始後 30 年を経えており、施設の老朽化対策が課題です。

公園等・緑地を、今と同じように維持していくとした場合、年間に掛かる費用はおよそ 10 億円となり、現在の公園等・緑地関連の維持管理費のおよそ 2 倍の費用が必要になります。



岩瀬下関防災公園

## 下水道・終末処理場

本市の公共下水道事業は、昭和 33 年（1958 年）に鎌倉駅を中心とした鎌倉処理区を第 1 期区域として事業に着手し、事業区域の拡大を図りながら整備を進め、平成 25 年度（2013 年度）末では、鎌倉処理区 1,188.5ha のうち 1,179.1ha、99.2%の整備が、大船処理区 1,471.0ha のうち 1,418.3ha、96.4%の整備が完了しています。

管きよは、既に、標準耐用年数の 50 年を経過したものが約 40 km、約 8 %あり、継ぎ目からの地下水の浸入防止など老朽化対策として二層構造管による管更生を順次実施してきました。また、鎌倉処理区では、地下埋設物等の影響や河川と交差する箇所もあったため、自然流下による整備が困難であり、中継ポンプ場が 7 箇所あります。また、下水道終末処理場は、鎌倉処理区にある七里ガ浜下水道終末処理場と、大船処理区にある山崎下水道終末処理場の 2 箇所があります。

今後も、終末処理場を 2 箇所維持していくとした場合、年間に掛かる下水道関連の維持管理費はおよそ 59 億円となり、現在の下水道関連の維持管理費のおよそ 3 倍の費用が必要になります。



山崎浄化センター

## 生活環境施設

市では、収集ごみを名越クリーンセンター、今泉クリーンセンター、笛田リサイクルセンター、深沢クリーンセンターの4箇所で、収集した可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、し尿を処理しています。

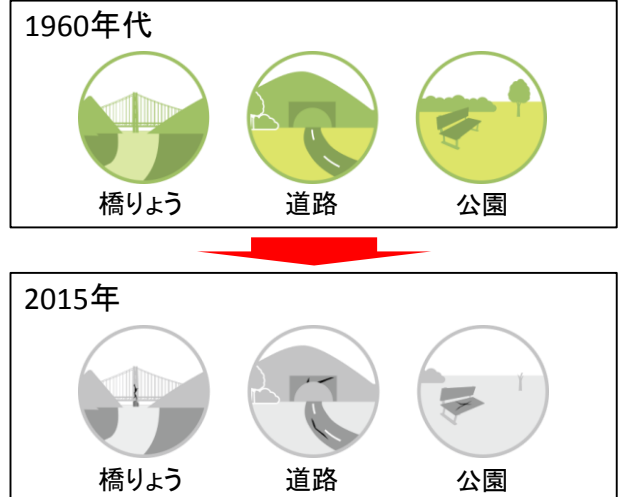
施設は、昭和48年（1973年）に設置された今泉クリーンセンターが最も古く、最近に設置された笛田リサイクルセンターも、稼動後17年が経過しています。今泉クリーンセンターは、老朽化のため平成27年3月をもって焼却処理を休止し、粗大ごみの処理とごみの中継施設として使用しています。



名越クリーンセンター

### なぜ、それぞれのインフラで、今以上に管理経費が掛かるのか。

それは、最初にお話したとおり、鎌倉市のインフラの多くが昭和30年から40年にかけて整備されたものであるため、今、この時期に多くのインフラが寿命に近づいているためです。インフラを常に最新の状態を保ち、新しいものを造り続けなければよいという時代は終わりました。これからは、今あるインフラを、できるかぎり安全な状態に保ち長く使うこと、社会環境の変化に合わせてインフラの機能や形を変化させていくことを考える必要があります。



### アンケートのご協力をお願い

そんなに多くの施設について、アンケートをされても分からないという方も居るかも知れませんが、このアンケートでお尋ねする社会基盤施設は、先に説明したとおり、みなさんにいつも使っている道路や下水道、公園等・緑地を始め、一度は目にしたことがあるものばかりですので、ぜひご協力をお願いします。

鎌倉市では、「鎌倉市社会基盤施設白書」をホームページで公開しています。

ぜひ一度ご覧ください。

内容をコンパクトにまとめた概要版もご用意しております。

お問い合わせは

鎌倉市役所 都市整備部道路課 国道道対策担当

電話 0467-23-3000 内線 2570